

小児在宅医療患者のためのメディカルショートステイ実施状況調査結果

1 結果概要

- 県内 33 市町村から調査票の提出があり、回答率は 100%
- メディカルショートステイを実施している医療機関等の有無については「ある」と回答した市町村は 4 つであり、実施率は 12%。うち、実施機関に対して「財政的支援がある」と回答した市町村は 3 つであった。(横浜市、厚木市、相模原市)
- 調査は実施機関だけでなく、当該機関の受入条件まで把握することを目的としたが、実施機関の把握すら困難な結果となった。理由として、レスパイトを目的としたメディカルショートステイは制度として整っていないこと、また家族からの希望に都度医療機関が対応している状況で、実施を広く公開していないことが考えられる。

2 メディカルショートステイ実施にあたっての課題

- 実施していないと回答したすべての市町村が、メディカルショートステイは「必要」と回答しているが、実施にあたっては次のような課題がある。
 - ・ 医療と福祉の連携体制の構築が不足（行政は担当部署が分かれている）
 - ・ 医療的ケアを要する患者のレスパイトに対する適正な診療報酬の設定
 - ・ 入院患者との兼ね合いもあり、メディカルショートステイ枠のベッド確保は困難
 - ・ 常にベッドを確保するには補助がないと難しい
 - ・ 小児在宅患者のケース自体や医療資源が少ないこともあり、小規模市町村単独での整備は難しい
 - ・ 場所によっては受けてくれる病院はあるが、ケースごとの個別相談となる

3 メディカルショートステイ実施機関の運用にかかる課題

- 土日祝日等、緊急時の受入対応ができない
- 利用者から、希望した日時での利用ができないとの声がある

4 調査結果の活用

- 総合療育相談センターの短期入所連絡会議との連携を検討。
- 市町村情報交換会において、本結果について共有し、メディカルショートステイ実施にあたっての課題について検討することも考えられる。